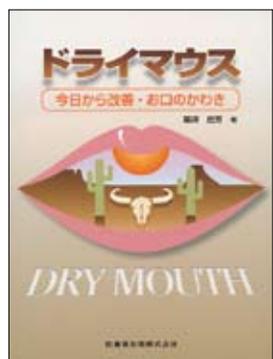


ドライマウス 今日から改善・お口のかわき

市立堺病院 歯科技術科／河崎晃子



A4 判変／40 頁
定価 2,940 円
(本体 2,800 円＋税 5%)
医歯薬出版
(2010 年 6 月発行)

「ドライマウス 今日から改善・お口のかわき」という親しみやすいタイトルを掲げた書籍が発行されました。ドライマウスという言葉は、医療機関では一般的になりつつありますが、外来に來られる患者さんには意外に馴染みがなく、主治医から病名を告げられ、はじめて知る方も多くいます。

来院された患者さんを問診し、的確に診断したのち、病状の改善に取り組むためには、わかりやすい教科書が必要になりますが、分厚く難しい医学書が多く、不安を抱えた患者さんの説明用には使いにくいものがほとんどです。すなわち、はじめて説明を受ける患者さんにも「なぜ起こるのか?」「どのように治療すればよいのか?」「何に注意すればよいのか?」を簡単に示した解説書がありませんでした。

ドライマウスの原因には、睡眠薬、精神安定薬、抗うつ薬、降圧薬、胃薬、抗コリン薬、抗アレルギー薬、風邪薬などの薬剤の副作用、ストレス、筋力低下などがあげられますが、糖尿病、シェーグレン症候群のような疾患や悪性腫瘍に対する抗がん剤、放射線療法の副作用も含まれます。さまざまなメディア

で口腔ケアの重要性が唱えられるようになりましたが、残念ながら、まだまだドライマウスの対症療法は普及していません。実際、「お口のかわきに伴う不快感をなくしたい」「何かよい薬はないか?」と、さまざまな医療機関をさまよう患者さんが増加しています。

本書の特徴は、専門用語が最小限におさえられており、医療・介護従事者でなくても、理解しやすいということです。イラストや写真が鮮やかで文章も短く簡潔で読みやすく、私もまるで絵本を読んでいるような感覚で一息に読むことができました。患者さんを含めて、ドライマウスについて関心のある一般読者の気持ちになって書かれているといえます。もちろん、ドライマウスについて基本を学びたい歯科医師、歯科衛生士にとっても有用で、摂食機能療法を実践するためのヒントがたくさん含まれています。経験のある医療従事者にとっても、はじめて説明を受ける患者さんに対症療法を理解させ、自宅で実践してもらうことはなかなか難しいと思われま。唾液腺・口腔粘膜マッサージについて写真付きで解説されており、チェアタイムの節約のためにも、有効なツールとなるでしょう。内容としては、一般の歯科医療従事者が苦手とする口腔のリハビリテーションの入門書としても役立つと思います。さらには、診療領域にかかわらず、内科、耳鼻科、外科、精神科・心療内科など、患者さんが訪れる医院の待合室や診療の補助書籍として、本書がドライマウスの患者さんの症状軽減・改善につながることを期待しています。